吉田

守男君

作

Ж

曙星瞬 く恋々と に秋添う時雨月

か

んに 煙^t

性る大平原 だいへいげん

落さるい 幽が秋い されど近づく蕭晨に しばし悄然と

はつのるせつなくも

黒俊馬の長嘶に沈思破れ の情趣を知る二十

葉

さす

秋の百子夜に我は夢幻か人の世は

が 然

払

暁

赤紫雲の黄昏 い雨もやみて と へと託すか 端に我が久懐 ** おまもい 外玉の如 あ に 如芒 かね な

木の葉さやぎぬ涼風に野菊に滴る血の雫

情^なさ

の露を探求むな

野を流離えば深き哀愁の

己ぉ が 利と鎌がま 紫紅 きら 球の秋月はあな悲しれの闇に淡く浮く れの闇に淡く浮く [、]運命か斯く かく 落さ Ü にあれる 長庚にただ涙 の 日_v 、ある 0

地 s 秋 s き 平 î の ただただ涙は何故 りて落つる流 -の彼方: ハへ冴星空を ればし